



第四號

昭和十二年
十一月二十五日
密水橋附近戰鬥詳報

歩兵第六十六聯隊第一大隊

1857

目次

- 一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要
- 二 各時期ニ於ケル戰鬪經過並攻撃部署
- 三 戰鬪影響ヲ及ホセシ天候氣象及戰鬪地狀態
- 四 戰鬪成績及彼我ノ損害
- 五 將來參考トナルヘキ所見
- 六 功績顯著ナルモノ
- 七 將校同相當官職員表
- 八 死傷表
- 九 武器彈藥損耗表
- 十 鹵獲表

昭和十二年十二月二十五日空水橋附近戰鬥詳報

一 戰鬥前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一 湖洲附近ノ戰鬥ニ於テ敗走セル敵ハ空水橋西北方
險峻ナル高地帯ニ於テ「ト」ナカ陣地ヲ構築シ我軍
ノ北進ヲ拒止セント企圖スルモノ如シ

二 湖洲西北方迂回隊ノ前衛タル大隊ハ十一月二十五日
午前九時龍沔頭（湖洲北方約四料米）附近ニ於
テ奥旅團（實力二大隊）ハ既ニ西方ニ向ヒ追撃シ敵
ヲ攻撃中ナルコト及國崎旅團ハ本道南側ヲ西方ヘ
遠ク追撃中ナルノ情况ヲ知り急進シテ奥旅團ニ
追跡ス

二 各時期ニ於ケル戰鬥經過並攻撃部署

第十一月二十五日午前十一時前空水橋附近ニ到着シ
戦況及昨夜先行セシメタル加藤將校等候情
況ヲ知り且ツ秋山旅團長ヨリ中隊長以上ハ空水
橋西端本道北側高地ニ集合ヲ命セラレ同地
ニテ左記要旨ノ命令ヲ受ケ大隊長ハ中銃隊長
ト共ニ現地ニ就キ敵情ヲ視察ス

旅團命令ノ要旨上日

一敵ハ新道兩側高地頂上ニ各掩蓋ヲ有スル重火
器陣地點在シ且其ノ山腹ニ一連ノ陣地ヲ占領
シアリ

ニ旅團ハ速ニ此ノ敵ヲ攻撃シテ宮山方向ニ進出セントス
三一川大隊ハ右第一線トナリ櫛形松林方向ヨリ本
道北側高地ノ鞍部方向ニ攻撃ヲ重點ヲ指向シ

1860

スル如ク攻撃手スヘシ、

爾後聯隊長、指揮ニ入ルヘシ、

傷ニ然ルニ此時聯隊長来著、左記要旨ノ命令ヲ受領ス、

歩六六作命甲第四十七號

十一月二十五日午前十一時三十分
於釜水橋西北方約吉聯隊本部

歩兵第六六聯隊命令マ

一、敵、新道兩側高地頂上ニ各掩蓋ヲ有スル重火器陣地

點在リ且ツ其ノ小腹ニ一連ニ陣地ヲ占領シアリ

旅團、此ノ敵ヲ攻撃シテ呂山方向ニ進出ス、

ニ、聯隊（第三大隊（第十中隊、第十二中隊）歩兵砲中隊、

聯隊砲中隊）ハ現在、線ニ展開シ重點ヲ左翼ニ

保持シ敵陣地ヲ兩側ヨリ包圍スル如ク攻撃シ殲滅

セントス砲兵隊ハ聯隊ノ攻撃ニ協カスルヲ

三、第一大隊（第四中隊）ハ右第一線トナリ新道以

北ニ展開シ敵陣地ノ左翼ヲ包圍スル如ク攻撃スヘシ
特ニ砲兵隊ト密接ニ協カスヘシ
四、第十二中隊（聯隊機関銃一小隊附ス）ハ連カニ新道
南側高地ヲ占領シ聯隊ノ左第一線ノ展開ヲ容
易ナラシムルト共ニ一部ヲ以テ其西方高地ヲ奪取シ聯
隊ノ敵ノ右翼ヲ向ニスル包圍攻撃ヲ容易ナラシム
ヘシ

五、第三大隊（第八中隊欠）聯隊機関銃中隊四分ノ一欠屬
ス、左第一線トナリ新道南側ニ展開シ重點ヲアノ
高地ニ指向シ敵ノ右側背ヨリ攻撃スヘシ
特ニ第十二中隊ト密ニ連絡スヘシ

六、以下略

既ニ集合シタル各中隊長ニ對シ窪水橋西端本道

北側高地ニ於テ攻撃ニ関スル左記要旨命令ヲ
下達ス

第一大隊命令

十一月二十五日午前十二時五十分
於密水橋西北高地大隊本部

一、敵情（現地ニ於テ指示ス）

聯隊ハ重點ヲ左翼ニ保持シ敵ヲ包圍殲滅ヲ企圖ス

二、大隊（第四中隊欠）ハ右第一線トナリ重點ヲ右方

ノ櫛形松林ノ西北方高地ヨリ山石山北側高地鞍部

ニ指向シ敵ノ左翼ヲ包圍攻撃セントス

砲兵隊ハ主トシテ當大隊ノ攻撃ニ協カス

三、第三中隊第一線 大隊本部第一機関銃中隊

第二線第一第二中隊（第二中隊右）第三線

第三中隊基準 各中隊ハ分隊毎ノ四列側面縱

隊ニテ概テ櫛形松林附近迄前進

三

四、第三中隊ヨリ約一分隊ヲ出シ進路ノ警戒戒並ニ前方

集團家屋ヲ掃蕩セシムヘシ

五、第一中隊ヨリ輕機ヲ有スル二分隊ヲ西北最高地ニ出

シ大隊ノ右翼ヲ警戒スルト共ニ將來敵ノ側背ヲ攻

撃セシムヘシ

六、前進時機ハ後ニ示ス

七、予ハ大隊本部ト共ニ前進シ後櫛形木林西方高地

ニ到ル

第一大隊長 一刈少佐

下達法

各中隊長ヲ集メ要ニ目ヲ達ス

第三各時期ニ於ケル戰鬥經過並攻撃部署附圖第

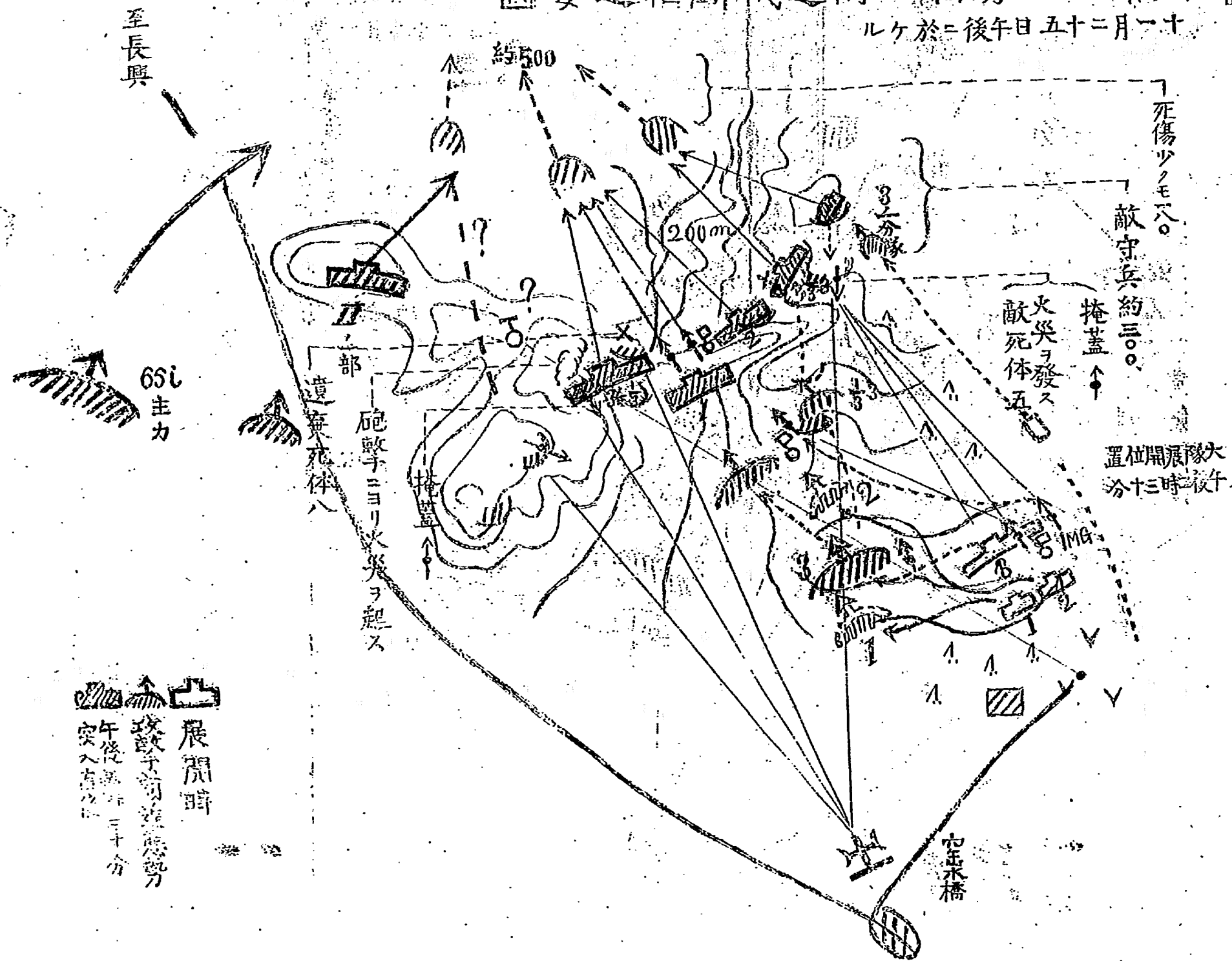
一、如シ

1864

圖要過終鬪戰近附地高方北西橋水密

ルケ於ニ後午日五十二月一十

附圖第一



1865

計明五卷水橋西才高地、縣開要圖



1866

第四砲兵隊ノ掩護砲撃ヲ、許ニ前進ヲ開始各中隊ハ隊形及地物ヲ利用シ、櫛形松林ノ東側道ヲ其ノ西北高地ニ向ヒ前進ス、

途中櫛形松林南方無名部落ニ掃蕩セルモ敵兵ナシトノ報告ヲ受ス、

第五櫛形松林北側ニ於テ敵機関銃ノ射撃ヲ受ケタルモ更ニ前進シ同高地ヲ占領シ左ノ命令ヲ下達ス、

第一大隊命令

十一月二十五日午後二時
於密水橋西北方高地大隊本部

一、敵ノ陣地ハ諸官ノ見ルカ如ク其ノ一部ハ最高地ヨリ續々増援シ、アリ、

二、大隊ハ現在地ニ展開一部ヲ以テ最高ノ高地ヨリ敵ノ側背ヲ攻撃シ主力ハ鞍部方向ヨリ敵ヲ攻撃シ高地前端ニ進出セントス、

三、第三中隊及第一機關銃中隊第一線此、高地ニ展開直々前、高地ヨリ鞍部方向ニ向ヒ攻撃スヘシ

四、第一機關銃中隊此、高地ニ隱蔽侵入シ先ツ右方アノ敵ヲ射撃シテ第三中隊ノ前、高地進出ヲ援助シ爾後第三中隊ノ攻撃ニ協カスヘシ

五、第三第一中隊ハ豫備隊、中隊後

六、攻撃前進、時機ハ後命ス

第一大隊長 一刈少佐

第六、第三中隊展開完了ヲ待テMG長又急遽射撃ヲ實施セントスルモ敵ノ瞰制下ニ在リテ銃位置ノ選定容易ナラス其ノ効果モ亦十分ナラス
此ノ附近ハ岩石地ニシテ且ツ荆棘、蔓草類繁茂、頗

ル運動ヲ妨ス

午後三時三十分攻撃前進ヲ起ス、敵ノ機銃頭上ヨリ熾烈ナル射撃ヲ加ヘ第一線ノ攻撃前進ヲセス依ッテ木村伍長ヲシテ敵情ヲ寫景圖ヲ以テ通報シ友軍砲兵ノ射撃ヲ要求ス、之ヨリ先秋山旅團長ハ當面ノ情况ヲ觀察シ適時砲撃ヲナサシメタリ

第七、本道方面ニ輕裝甲車隊旅團司令部及野砲隊等ノ前進ヲ見ルヤ敵ハ掃射ヲ行ヒ爲メ其ノ陣地暴露シ爾後ノ攻撃ニ便ヲ得タリ

聯隊主力方面ハ攻撃進捗シ既ニ本道左方三角形高地ノ線ヲ超エ前進シアルヲ見ル

第八、午後四時過キ大隊長ハ新ニ加ヘル重砲射撃ノ効果ヲ利用シ第一線部隊ヲ激勵シテ前進セシム

1869

ルト共ニ之ニ伴ヒ第三中隊ヨリ一小隊ヲ更ニ右方高地ニ出サシメ主カハ依然鞍部ニ向ヒ前進スル如ク指導ス此ノ時第二中隊ヲ第三中隊主カノ右ニ増加ス、

第九、第三中隊渡邊小隊右高地方向ニ中隊主カハ既ニ示サレタル鞍部方向ニ前進ヲ續ケ最右翼ニ在リシ一分隊ハ遙カ右前方ノ最高地點ニ進出セルヲ見ル、敵ハ或時ハ第一線ニ増加シ或時ハ後退シ又或ル者ハ左右ニ移動シ動搖ノ色アリ

此ノ時第一線ニ進出シテ戦斗ヲ指導シアリシ澁谷大尉ハ機ヲ失ヒ第一線中隊ヲ果敢ニ前進セシム、

第十、敵ハ我カ砲兵ノ射撃ヲ効果ト裁リ反撃ヲトシ依リ遂ニ各高地ノ既設陣地ヲ放棄シ潰走セリ、高地頂上

1870

ニ突入シ前方谷地ヲ退却スル敵ヲ射撃セルモ敵主力
トノ距離ハ既ニ千二百米余ニ達シ且ツ日没迫レルト敵既
ニ前方山地ヲ越ヘ地形錯雜セルヲ以テ戦場追撃ヲ中
止シ部隊ヲ集結次序列ヲ以テ追撃ヲ前進ニ移ル

○³³ ○³⁵ ^イ ^{II} ^{IV} ^ノ ^二

八字橋西北無名部落ニ於テ大休止、夕朝食ヲナシ
ル上長興ニ向ヒ追撃シ長興ニ到着セシハ十一月二十六日
午前九時過ナリ

三、戦斗ニ影響ヲ及ボセシ天候氣象及戦斗地ノ状態

第一、天候 晴天

第二、氣象 快晴ニシテ射弾ノ觀測及距離ノ測定等

明瞭ナリ

第三、戦斗地ノ状態 山地

六

一 本道ハ諸所ニ橋梁附近ヲ破壊爆破シアリタ
ルモ諸兵ノ通過容易 其他ノ山徑ハ徒歩
兵ノ行動ニ支障ナシ

ニ 山地及斜面 山頂ハ比高ノ大小斜面ノ形状
ニ依リ寡兵ヲ本道附近ヲ瞰制シ得

最高々地附近ハ東南ニ對シ克ク收容隊
ノ使用ニ適ス 敵ハ各山頂ヲ據點式ニ占領シ
其カ攻撃ヲ推移ニ應シ 部署ヲ変更シ其ノ
主力ノ退却收容ニ努メタリ

岩石地ニシテ其ノ中復附近ニ荊棘雜生シ
徒歩兵ノ行動ヲ妨ス

四 戦斗
第一 成績及彼我ノ損害

重傷 兩大腿軟部貫通銃創、予歩上屋 藤吾
輕傷 左大腿軟部貫通銃創、後歩一坂本徳治
第二敵ノ損害

目撃セル死体一三、死傷少クモ一八〇、鹵獲兵器及
彈藥相當アリタルモ追撃中夜ニ入りタル爲ト
戰場附近ノ谷地並ニ山石地帯ハ其ノ儘トシ之
ヲ顧ス長興ニ向ヒ追撃手セリ

第三潰走セル敵ハ約五百以上ニシテ各高地ヨリ西北谷
地ニ雜踏セルヲ追撃手射撃スルモノ二百以上モ離
隔シアリテ將ニ稜線ヲ超越シ漸ク日没トナリ敵
影ヲ逸スルニ到ル茲ニ於テ錯雜セル山地ノ追撃手ヲ
一時中止シ部隊ヲ集結シテ長興ヘ追撃手ニ
着手ス

第四戰鬥効果

之ヲ要スルニ敵ニ殲滅的效果ヲ收メ得サリシモ

1873

五、將來參考ノトナルヘキ所見

第一、本戰斗終了後敵陣ノ價值並兵力等ヨリ判斷スルニ敵ノ退却ハ相當ニ混亂シアルモノノ如ク又我大隊ノ攻撃セシ高地ハ收容陣地トシテ相當ノ價值ヲ有シ其ノ兵力モ亦強大ナリシモノト認ム、然ルニ之ヲ過早ニ放棄潰走セルハ友軍砲兵ノ射撃ノ效果ニ依ルモノト云フヘシ、然ルニ殲滅的效果ノ伴ハカリシハ追撃ノ意ノ如ク斜

徹底的ノ損害ヲ與ヘ左第一線ノ攻撃ヲ容易ナラシメ迅速ナル追撃ヲ決行シテ遂ニ長興附近ニ於ケル抵抗ヲ斷念スルニ到ランメクルモノト認ム、

面ノ攀登出来サリシト敵トノ距離ノ二百以上モ離
隔レ日没トナリシヲ遺憾トス、

第二、敵ノ地物利用、狙撃動作装具ノ輕快ナルニ反
シ我々軍装具輕捷ナラス又斜面ニ於ケル地物利
用ニ際シ適當ナラサルハ更ニ考ノ處ノ餘地多シ

第三、高低角多キ山地戦ニ在リテハ射彈觀測ハ思ヒ切
ラテ近彈ニ依リ修正誘導スルヲ要ス、

約千料附近ノ山頂ノ敵ニ對シ七百米ノ照尺ニテ射
撃セシカ如シ、

第四、歩砲連絡又ハ各隊指揮連絡、爲OS無線機
配屬アレハ可ナリ、本戦斗ニ於テ我砲兵ノ射彈ノ
誘導殊ニ敵ノ潰走セルヲ目撃セシトキ又ハ左第一
一線及聯隊主カト連絡シ戦斗直後、連絡断ア

ル行動ヲナスヲ得ニ層ノ戦果ヲ收ムヲ得シナラン
六功績顯著ナルモノ

部隊

第三中隊

第三中隊ハ敵カ密水橋西北方高地ノ各山頂既
設陣地ニ據瞰制セラレタル猛火ヲ討ニ在リテ友軍砲
兵ノ射撃ヲ効果ヲ巧ニ利用シ渡邊小隊ヲシテ敵ノ
支障具タル最高々地ヲ速ニ占領セシムルト共ニ續イ
テ中隊主力ヲシテ其ノ西方幹部ニ進出シ我カ大隊
主力延イテハ聯隊主力ノ長興ヘ向ツテ行ッ追撃ヲ速
ナラシムルヲ得タリ

小川伍長

藤澤上等兵

外三名

1876

渡邊小隊より更に弁候ヲ命セラレ敵ノ支撐点ヲ
最高シ地タル要地ヲ占領シ中隊主カノ高地進
出ヲ掩護シ潰走スル敵ヲ猛射シタリ

七、將校同相當官職員表

八、死傷表

附表第一ノ如シ

九、武器彈藥損耗表 附表第二ノ如シ

十、鹵獲表

九

1877

戰鬪參加將校同相當官職員表			
隊號	職官	氏名	
本部	大隊長 大隊副官 大隊附 主計中尉 軍醫中尉 全	一川勇策 大根谷仁 日下田建夫 淺野昌晨 館野昌晨 增井清七	
第一中隊	中隊長代理步兵少尉	岡田恒房	
第二中隊	中隊長 步兵中尉 步兵少尉 全	荒牧新一郎 石川倉藏	
第三中隊	中隊長 步兵中尉 步兵少尉	西澤辨吉 渡邊紋藏	
第四中隊	中隊長 步兵中尉	田部井平人	
備考			

1878

戦闘詳報第二號附表

昭和十二年十月二十五日 第一大隊武器彈藥損耗表(甲)

考備	計	第一中隊	第二中隊	第三中隊	本部	隊分		種類	消費	損失
						銃	小銃			
一銃ノ損失ハ小銃彈ニ依ルモノトス	1300	980	320			銃	小銃	彈	費	損
	3560	3160	400			銃	小銃	彈	費	損
	1020	1020				銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損
						銃	小銃	彈	費	損

戦闘詳報第三號附表

昭和十二年十月二十五日 第一大隊鹵獲表

考備	員數	區分	種類	種類
敵死傷少クモ一八〇	6	校下	將士	捕虜
		兵	馬	
	10	銃	砲	戰利品
	1400	包	實砲	
	50	彈	具	
		殊	糧	